

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900940		
法人名	有限会社 グループホーム夏吉園		
事業所名	グループホーム 夏吉園		
所在地	〒825-0004 福岡県田川市大字夏吉3614番地1 Tel. 0947-45-3108		
自己評価作成日	令和03年04月20日	評価結果確定日	令和03年05月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel. 093-582-0294		
訪問調査日	令和03年05月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所開設以来、夏吉園は利用者様、ご家族様、地域の方々等たくさんの方からご支持を得て、皆様と一緒に成長してまいりました。
夏吉園の利用者様は住み慣れた地域で、信頼できる人たちに囲まれ、家庭的な雰囲気の中、穏やかに暮らしておられます。穏やかな生活の中でも常に利用者様が前向きになれるような介護を提供できるよう努力しています。季節のお出かけや何気ないドライブ、行事や毎日のレクリエーション、リハビリにも積極的に取り組んでおります。「楽しかった」と言われ見せてくださる笑顔は夏吉園の宝です。外出から帰られた時にも「ここが一番落ち着く」と言って下さいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「夏吉園」は、「ここで暮らす皆様がいつまでも幸せでありますように」の願いの下、2003年6月に開設された定員18名のグループホームである。正看護師2名を配置し、協力医療機関医師と訪問看護師、介護職員との連携で安心の医療体制が整い、看取りも行っている。調理スタッフがプライドを持って作る季節感あふれる美味しい料理を、皆で賑やかに食べる活気ある食事の風景は当ホームの自慢である。コロナ禍で面会や外出が制限される中、園内レクの充実を図り、花いっぱいの花壇に囲まれた中庭にテントを張って距離を保って行う面会の実施や、人の密集しない公園へテントとポータブルトイレを持って花見に行く等、利用者の一日一日がわくわくしたものになるよう、職員が知恵を出し合い工夫を重ねて取り組んでいる。外部評価や指定更新時の指摘を真摯に受け止めて改善に努め、常に質の向上を目指し努力を続ける姿勢に、家族や地域の信頼も厚い、グループホーム「夏吉園」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11.12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は広間に掲示し、毎朝唱和している。ゆったり楽しく家庭的な雰囲気となるよう、ご本人の意思を大切に見守っている。地域の方々が病院から退院したその先を心配しなくてよいよう、各病院の地域連携室等へ空室状況等お知らせしている。	夏吉園の理念を見やすい場所に掲示して、初心に立ち返るために毎朝の申し送り時に唱和し、柱となる大事な思いを共有している。職員は、地域密着型サービスの意義を理解し、地域と共に生き、地域に愛され、頼りにされる園づくりを目指し、実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自粛生活で今まで参加できていた地域の行事がことごとくなくなった。運営推進会議等も書面でのやりとりとなり、今まで関わっていただいていた委員の方々が広報を持ってきてくださったたり、野菜を持ってきてくださったたり、こちらから少人数でお宅にお伺いしてお庭の花を見せてもらいに行ったりと交流を続けている。	コロナ禍以前は、公民館で介護予防教室を開催したり、地域の行事にも積極的に参加し、地域との関わりを大切に取り組んできた。現在は、個別でのやり取りで情報交換を行う等、出来る範囲で交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス以前は地域の方をご案内し、公民館で介護相談介護予防教室を開催していた。体操とカフェ風の手作りおやつを提供し、地域の高齢者にとっても「久しぶりやね」と言って笑顔を交わし合う楽しみな行事の一つとなっていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員の方々に一堂に会して頂く機会を持つことはできなかったが、園の活動報告は行っており、園内で行っている行事のことなどでご意見をいただいている。委員の方々は園の事を気にして野菜を持ってきてくれたり、広報を持ってきてくださったりと個別に園に来てくださっている。	新型コロナウイルス対策の為、対面での会議の代わりに、利用者状況、行事報告、その他の報告事項をまとめた資料を作成し、委員に送付することで運営推進会議としている。個別のやり取りの中で各委員の意見を聴き取り、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの担当職員さんとは運営推進会議の代わりとなる書面のやり取りで連携を取っている。	行政窓口にも、空き状況や事故報告を行い、疑問点や困難事例等を相談する等、情報交換しながら連携を図っている。2ヶ月毎に、ホームの状況報告を書面で行い(運営推進会議の代わりに)、地域包括支援センターの職員から意見や情報提供を受ける等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園内で研修を行い、身体拘束廃止委員会も開催している。	身体拘束については、身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、園内研修の中で、禁止となる具体的な行為について確認することで共通理解に努めている。また、緊急やむを得ないとされる条件やその先の手続き、記録の方法等についても学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアが「良かれと思って」「介護の工夫」などとすり替えられることが無いよう、具体的な事例を学び、お互いで注意し合うことを約束している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内のケアマネージャーは成年後見人をしており、知識も深いため園内で勉強会を開いて学んでいる。必要な時に対応できるようパンフレットなども用意している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する資料を揃え、見やすい場所に掲示する等して、訪れる家族の目に触れるよう工夫している。現在、成年後見制度を活用している利用者はいないが、内部研修の中で、職員一人ひとりの理解を深め、必要時にいつでも活用できるよう準備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ禍で入院中の本人様はなかなか契約前に当園に来ていただくことはできなかったが、ご家族様に夏吉園に来ていただいている。契約に至るまでに職員などとも話をさせていただき疑問を解消されるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	イベントや外出した時など報告のお手紙とご様子がわかるように写真をお送りして、園の職員が身近な存在だと感じていただけるよう、連絡を密にとっている。要望などいただいた時にはすぐに対応し、報告をしている。	コロナ禍で面会制限のある中、花いっぱいの中庭にテントを張り、距離を保って面会をしてもらう等、工夫して取り組んでいる。また、ホーム便りに手紙と写真を添えて家族に送付したり、こまめに連絡を取ることで家族の安心に繋げている。家族からの意見や要望があれば、すぐに検討し、運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月10日は全員参加の会議を開き、様々な意見を話し合う機会にしている。	職員会議は毎月10日19時から開催し、職員の意見や提案を出し合って話し合い、ホーム運営や業務改善に反映させている。毎朝のミーティングや業務中にも、職員の気付きや心配事を話し合い、管理者を中心に速やかに解決に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会保険労務士に相談の上、改訂を重ねながら就業規則、賃金規定を整備してきた。処遇改善金なども活用して実績や経験が評価される内容となっている。労働時間も職員一人一人の事情をくみ働きやすい環境づくりに努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢に制限はなく、採用に当たっては利用者様としっかり向き合おうとする気持ちを最も重視している。	希望休や有休の確保、職員一人ひとりの働き方の希望に合わせた職員配置を行い、定年後も、職員の希望を聴きながら継続して働き続けることの出来る職場環境を整えている。職員は、それぞれの特長や能力、経験を活かして生き生きと働いている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「信頼関係を作り人としての尊厳を大切に」理念の実現ができてきているか、機会あるごとに職員に問いかけ、この理念が利用者様とのかかわりかたの基本であることを会議のたびに伝えている。人権に関する研修会にも参加をして内部の勉強会にも活用している。	利用者の人としての尊厳を大切にすることを理念に掲げ、繰り返し話し合うことで意識づけを行っている。職員は、気持ちを表す事の出来ない利用者の権利を守ることの難しさを常に感じながら利用者へ寄り添っている。また、接遇に力を入れて取り組み、言葉遣いや対応に気をつけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にはなかなか参加しにくい状況だったが、インターネットやDVDなどを活用し、学びの機会を確保するようにした。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	田川市区サービス事業所協議会などに積極的に参加していたが、今は同業他社とは電話連絡のみとなっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	地域密着型の施設ですので、新規の利用者様は当園関係者のお知り合いの方が多く、入居してすぐの利用者様の心細さを払しょくするため、顔なじみの職員を傍に配置し、不安や不満をため込まないようケアしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約に至る前に電話や施設に来ていただき、何度もお話し合いを重ねている。本人様のお気持ちやご家族様のお気持ち、背景、ご家族様のお困りごと等話していただくためあらかじめ質問をまとめた書類も用意している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設で出来る対応がどういったものかわかりやすいよう、施設内をご案内する。ご本人様のご様子が把握しやすいよう、ご家族様に許可をいただいて入居前利用していた施設や病院等とも連携し情報をいただいている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の能力に応じ、料理、掃除、庭の花づくりなどの軽度な家事には積極的に参加していただいている。職員は利用者様がやってくださった作業に対して丁寧にお礼を言い、利用者様が達成感を得やすいよう配慮している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態が変化した場合はすぐにご家族様に連絡を取り、状況をお伝えしている。コロナウイルス警戒の為面会の制限はさせて頂いてはいるが、お庭にテントを張り距離を開けて面会やお話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段から利用者様にご家族やご親戚やご友人、知人様が訪ねてこられることが多く、行事の時にはそういった方も招待している。また、地域の行事も利用者様が馴染みのある方とお会いする良い機会なので、積極的にお連れするようにしている。コロナの影響で参加できる地域の行事もめっきり減ってしまったので再開を心待ちにしている。	コロナ禍で、地域に出かけていく事やホームの行事に外部の方を招くことも出来ない状況である。そのような中、庭にテントを張って個別に電話をかけて、「今日、天気が良いので遊びに来られませんか」と声を掛け、毎日のように外のテントの下で面会されるなど、出来ることを工夫しながら、馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1・2棟の枠を超え職員が橋渡しをし、利用者様同士の会話が和やかになるように支援している。作業の手伝いにも入っていただき、孤立感を持たれないよう配慮している。利用者様同士の会話に注意深く耳を傾け、攻撃的な発言などがあった場合はすぐに間に入り、気分を変える提案をして長引かないようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用契約が終了しても、面会やお見舞いには何度も行き、ご家族様との関係を大切にしている。また、亡くなられた方の葬儀や初盆には必ず参列している。退去時には園での思い出を綴ったアルバムや色紙、CD-Rをプレゼントしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	皆様のお気持ちが把握できるよう対話をしている。ご家族様からも今までの生活のご様子や趣味嗜好本人の思いなどを聞き取り、本人をより深く知る手掛かりとしている。お顔の表情などを注意深く見守り、伝達ノートやアセスメントシートに記録し職員全体で情報を共有している。	利用者の思いや意向を聴き取り、職員間で情報を共有し、介護サービスに反映させている。意思を伝えることが困難な利用者については、家族やベテラン職員に相談しながら利用者に寄り添い、話しかけ、その表情や仕草から、利用者の思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入浴介助や何気ない普段の会話のときなど、昔のお話を聞くようにしている。ご家族さまが来園時には現在のご様子をお伝えするだけでなく、昔はどうだったかという話をお聞きするようにして生活歴を把握するように努めている。お聞きした情報は記録に残し、職員間で共用しサービス利用の経過や結果などの把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	15分毎の細かい居場所確認表で利用者の1日の行動パターンを把握している。また、介護記録はただの排泄や食事のデータの記録とならぬよう、その人らしさをつかむための記録となるよう、やり取りを記録するようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した、利用者本位の介護計画を作成するために、利用者様やご家族様より意見やご要望、不安なことなどをお聞きし、担当者会議で検討している。また、主治医や職員とも話し合い介護計画を作成している。利用者様の状態の変化に合わせて介護計画の見直しも行っている。	職員は、利用者や家族の意見や要望、心配な事を聴き取り、担当者会議で検討し、主治医や看護師の意見を参考にして、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態に変化があった時には、その都度見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録は一時間ごとの時系録とし利用者様一人一人の様子を細かく記録するようにした。その記録は本人様にかかわるすべての職員が目を通すようにしている。ご家族様にも報告している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のご希望により、個別の買い物にお連れしたり、ご家族様から協力を求められ、法事に付き添うこともある。また、県外から来られるご家族様を、利用者様と一緒に駅までお迎え・お送りに行く等その時の状況に応じた支援をしている。ご家族様がボランティアとして園内で読み聞かせ、歌などを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事は利用者様にとって貴重な社会参加の場であると考え、開設以来積極的に参加し続けてきた。行事がごとくなくなる中で少しでも地域とのかかわりができるように近所のお庭に訪問させていただくなど、外との交流を途切れさせないよう努力している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者様、ご家族様と話し合って主治医を決めている。入居前のかかりつけ医を希望の場合は、希望を受け付けている。主治医には緊急時の対応や指示を出してもらい、安心の医療体制が整っている。	利用者や家族の希望を優先して主治医を決めている。かかりつけ医の受診は家族と協力して行い、利用者の医療情報を家族と共有している。協力医療機関の内科、眼科による往診体制が整い、看護職員、介護職員、必要に応じて訪問看護師との連携により、24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	持病をお持ちの利用者様について会議などを利用して看護職が介護職員に見守りのポイントなどを伝えている。病気に対する知識を深めるための勉強会も看護職が中心となり行われている。また小さなことでも気になることは看護師に相談、報告し指示をもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護士とケアマネが付き添い利用者様の日々の様子を伝える。日頃から入院の際最初の窓口となる地域連携室との関係を大切にしている。利用者様が入院された際はコロナにより面会制限があるので電話等でご様子をお伺いしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に交わす契約時にターミナルケアについて触れ、具体的なターミナルケアに対する希望を利用者様、ご家族様にきいている。利用者様の重度化に伴い、ご本人様が安心して終末期を迎えられるよう体制を整え、常に主治医、看護師、介護士を交えた話し合いを行っている。	契約時に、重度化や終末期の方針について、利用者や家族に説明している。正看護師を2名配置し、必要時には訪問看護師を取り入れ、利用者の終末期にも対応している。利用者の状態変化に応じて、家族や主治医と密に連絡を取りながら方針を確認し、利用者が安心して終末期を迎えられる環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が行う救命講習には毎年沢山の職員が参加している。園内でも普及員資格を取得した職員からの園内勉強会は欠かさず行っている。AEDはすでに設置済みであり、AEDを使用しての研修も行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの消防訓練は毎年行っている。また、月に一回の自主訓練、夜勤への引継ぎ時に夜勤者一人での対応を想定しての通報・誘導・避難訓練を短時間だが毎日行っている。災害時持ち出し袋は園の中にも外にも分散して用意している。連絡先や病歴、顔写真、服用している薬の名前などを書いた救急安心カードを首から下げられる形にして用意している、園内にはヘルメットや懐中電灯もわかりやすいように分散して置いている。公民館とは緊急時避難の提携もあり、備蓄品も置いている。	消防署の協力を得て行う消防訓練は年1回実施している。また、月1回の自主訓練に加え、毎日夜勤への引継ぎ時の、通報、誘導、避難訓練を行うことで、非常時に職員が冷静に対応できる体制を整えている。緊急時に備えて、災害時持ち出し袋を分散させて設置したり、ヘルメットや懐中電灯等を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	夏吉園の理念にもある人としての尊厳を大切にすることはどういったことなのか、スタッフがそれぞれ意識して介護にあたるよう勉強会を毎年開いている。心のこもったやさしい言葉かけの大切さを常に意識できるよう、伝達ノートに記入、廊下には標語も掲示している。守秘義務については入社時に誓約書を書いている。	職員会議や研修の中で、利用者一人ひとりを尊重した介護サービスについて話し合うことで理解を深め、言葉遣いや対応に注意し、利用者のプライドや羞恥心に配慮したケアに取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のご希望を尊重する声掛けを行うようにしている。毎日の決まり事と利用者様の希望のすり合わせをし、利用者様が「否定された」と感じる事が無いよう。丁寧な対応を心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で無理強くない、その方の希望を優先し、リハビリがしっかりと生活の一部となって根付いている。また、外出、イベントなど車いすの方なども含めて全員が楽しみとして参加していただけるよう工夫している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	園の敷地内にある美容室へ歩いてお連れしたり、歩くことが困難な方も車椅子お連れしている。行事や外出時は美容師に来てもらい、髪をセットし、お化粧をしてもらう。洋服はご自分で選んでいただき着ていただいている。また、洋服を寄付していただくこともあり、サイズの合う方へ活用させていただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	園の職員や近隣の方からいただく、たくさんの旬の野菜や果物を見て利用者様とメニューを決め、利用者様それぞれの能力を生かして買い出し、調理、盛り付け、配ぜん、片付けなど行なっている。彩も配慮した楽しい食事を提供し、利用者様の食欲も旺盛で活気ある食事風景が夏吉園らしさである。	職員や家族、地域の方からの新鮮な食材の差し入れを使って調理スタッフが心を込めて作る美味しい料理を、職員と利用者が一緒に食べる賑やかな食事風景は当ホームの自慢である。利用者の力に応じて、調理や盛り付け、配膳や後片付けを手伝ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お食事は主治医や歯科医に相談しながら普通食、キザミ食、ミキサー食等その方の状態に合わせた形態で提供している。水分の摂取量や食事の量は記録し、特変がある場合は医師や看護師に相談し、低栄養や脱水症にならないよう努め、生姜湯や甘酒を提供している。必要な場合は栄養補助のジュースやゼリーも使用している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後と就寝前と行っている。声かけ、介助の度合いは、利用者様のその日の状態に合わせて行っている。出来る方はご自身で行っていただいている。介助が必要な方でハブラシを使用できない方は口腔ケアスポンジや口腔ケアシートを使用し、口腔ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄表を作成し、排泄パターンを把握している。なかなか自分で行かない方には時間を決め声かけし、できる限りトイレでの排泄ができるよう誘導している。トイレの訴えがない場合でもその方の行動を見てトイレ誘導を行っている。お風呂がある日も毎朝洗浄し、ホットタオルで清拭している。トイレ誘導時の声掛けは特にプライドを傷つけることの無いよう配慮している。できることは自分でもらい、援助しすぎないことを気付けている。	職員は利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、利用者が重度化しても出来るだけトイレでの排泄を基本とし、安易にオムツに頼らないように工夫している。パットの種類やリハビリパンツの使用については頻繁に見直しを行い、夜間は利用者の希望や状態を見ながら、トイレ誘導やポータブルトイレ、オムツ使用等、柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員の排便パターンを記録し、把握している。食事は食物繊維を多く含む物や消化の良いものを使用するように心がけている。薬に頼りすぎないように、運動やマッサージ、水分補給などを組み合わせ、その人なりの排便ができるよう支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回予定しているが、その日の気分や体調に合わせて無理強いをせず、拒否のある利用者様には時間をずらし声かけしている。希望があれば入浴日でない日も入浴していただいている。	利用者の希望や体調に配慮しながら、週3回の入浴を基本としている。ユニットで曜日が違うため、予定日に入浴出来なかった場合は隣のユニットで入る事も可能である。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、職員を替える等、色々と工夫しながら気長に対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ夜間はゆっくりと眠られるように、日中は調理の買い出しや、料理作り、脳トレやリハビリ体操、堰堤散策を取り入れている。就寝時間は決めておらず眠れない方はテレビを見たり職員とお茶を飲んだり寝ることを強制はしない。おひとり寝ることを拒否する方には広間のソファベッドを利用し、人の気配を感じながら安心して眠られるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は各個人ファイルに保管し、変更があれば朝のミーティングや伝達ノートで確実に伝達し、全職員は理解ができている。服薬時は必ず2名体制で行い、声を出し確認を行っている。服薬後の小さな体調の変化にも気を付け、変化があれば管理者や看護師に伝達し、医師にも報告している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むきが得意な方、洗濯物をたたむのが上手な方、力が強く食器やお鍋を運んでくださる方。様々な得意を活かして活躍して頂いている。庭には花や果物の木があり、園庭の散歩で育ち具合を見守ることを楽しんでいただいている。	
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	三密を避けるため目的地は屋外のみではあるが、花のきれいなところを探し、外出をしている。公園などトイレの不自由な場所へはポータブルトイレとテントを用意し、外出を支援している。	新型コロナウイルス対策の為、これまでのような外出、外食は控えているが、密を避けての花見やドライブ等、トイレの不便を考えて、テントやポータブルトイレを持参する等工夫しながら行い、利用者の気分転換を図っている。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理に不安がある方は園が管理しているが、希望される方はご家族と相談し、小額のお金は所持されている。ご家族様が来園されたときにお小遣い帳を確認していただきサインをいただく。ご家族様には毎月お小遣い帳のコピーをお送りしている。お預かり時には預かり証も発行している。お買い物にはお連れしたときは、ご自身でお支払いもしていただくようお手伝いしている。	
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいというご希望があれば支援している。特に頻繁にかけるお相手には電話をかけてもいい時間帯をあらかじめ聞いておくなど気をつけている。	
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾り、季節に合った小物を飾り、園内に季節を呼び込む工夫をしている。段差やお風呂にはわかりやすい表示をし、事故や混乱を防ぐ配慮をしている。空気清浄機や加湿器を稼働させ臭い対策や感染症対策もしている。	「花でお出迎え」の気持ちを込めて玄関周りに花を植え、室内にも生花を生け、季節感を大切に家庭的で明るい環境である。清掃や換気を徹底し、中庭にはテントを張って草木を眺めながらの外気浴を可能にする等、職員は、「常に利用者のために」をモットーに、利用者が居心地良く過ごせるよう、取り組んでいる。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には椅子やソファを数多く、分散して配置している。利用者様がお好きな方またはお一人でお好きな場所に座ることができるような空間づくりをしている。人間関係に配慮し、ゆったり過ごせるよう工夫をしている。また、車いすで移動される方が多くなったため家具の配置を変え移動しやすくした。	
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室畳敷きなので入居前と変わらない量の生活ができています。利用者様が入居される際は今までの使い慣れた家具をお持ちいただき、利用者様の使いやすいお部屋を作るようにしています。壁には写真を飾ったり、ご自身の作品を飾ったり、花を飾られたり、思い思いのしつらえとなっている。	畳敷きの居室は家庭的な雰囲気、利用者の気持ちを落ち着かせ、家族の宿泊にも対応できる。利用者の愛着のある家具や身の回りの物の持ち込みをお願いし、その方らしい居室となるように、家族と相談しながら支援している。利用者の興味やこだわり等に配慮して、花を飾ったり、壁に写真や絵を飾る等、少しでも本人が安心して過ごせるよう、配慮している。
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札代わりに写真を飾り、お風呂やトイレは混乱の無いようイメージしやすい看板を付けている。利用者様のその時々々の身体状況に合わせて居室内で安全に過ごせるように家具の配置を工夫している。	